



## シリーズ 企業訪問

# 八光建設株式会社

～ オンリーワンの  
家づくりを目指す企業 ～

### 企業概要

代表取締役社長：宗像 剛

所在地：郡山市並木1丁目1番地の11

資本金：7,000万円

創業：昭和39年

TEL：024-922-8553

FAX：024-939-1052

従業員：58名

事業概要：建築工事業



代表取締役社長

宗像 剛 (むなかた たけし)

本県でも、建設業は公共事業の減少とともに受注量がピーク時より激減している企業が多く、異業種への転換などに取り組む事例も散見されます。こうした状況下で、八光建設は現社長への交代を機にそれまでの公共事業主体から民間の

注文建築主体の受注体制に見事な転身を果たした有力企業です。

そこで今回は、宗像社長に創業から民間受注への体制整備、足元の復興事業に至るまで建築・家づくりにかける思いをお聞きしました。



八光建設株式会社本社

● 創業と沿革についてお聞かせ下さい。

昭和39年4月に先代である父が創業し、建築・土木を中心に事業を展開、昭和53年には仙台支店を開設いたしました。その後、父から社長を引き継いだ私の代になって、平成13年に家づくりと生活文化の交流拠点をコンセプトとしたショールーム「ラボット」を、平成22年には「ラボット・ファクトリー」を開設いたしました。現在、「ラボット」は東京と仙台にも開設しております。また、平成22年には、伝統的な住宅の在り方と、現代の住宅建築技術や生活スタイルの融合を体感できる住宅展示場「sumika」も開設いたしました。

● 企業理念についてお聞かせ下さい。

企業理念は、「全員の英知と慈愛の精神で、暮らしの提案を通じて新しい住文化の創造に貢献し、お客様に信頼される企業を目指す」ということです。弊社の永続的な発展を図るため、従業員が「働いて良かった」と思い、取引先には「付き合っ



ショールーム「ラボット」内の住宅設備

目指しております。

● 民間受注への転換と社員教育についてお聞かせ下さい。

昭和39年の創業以来、弊社は学校や公共施設などの官公需を主力に業容を伸ばしてきました。このため、平成10年以降の公共投資抑制の影響を強く受けるようになったことから、顧客の多様化を重点目標として、民間部門、特に総合建築業がそれまで取り組んでこなかった個人住宅部門に進出することを決断いたしました。長年の実績で培ってきた建築技術を武器に「オンリーワンの家づくり」を掲げ、競争が激化する地元

に固執することなく、大きな需要が期待される首都圏や仙台圏への進出を実現することで、地域の枠を超えた顧客の獲得に挑戦してまいりました。当初は、民間事業へのシフトに伴う従業員の意識改革、特に接客経験のない従業員の教育には苦労を重ねました。営業の専門スタッフをハウスメーカーなど外部から中途採用して民間受注体制を整備・強化するとともに、社長である私自らが改革を本気で考え、行動する姿勢を示したことが



住宅展示場「sumika」内の住空間

従業員の意識改革にもつながり、自発的な創意工夫の創出にも結び付いたものと考えております。

● ショールーム「ラボット」＋「ラボット・ファクトリー」の概要についてお聞かせください。

「ラボット」は、様々な住宅関連製品や弊社の設計力、提案力などをお客様にお見せする拠点として活用しています。「ラボット (LABOTTO)」は、実験室 (Laboratory) とイタリア語の八 (Otto) を合成した造語で、生活実験空間という意味を込めています。ここでは、輸入家具や手作り家具、雑貨などを販売しており、お客様に住空間を実際に体感していただくことにより、お客様が理想の住まいをお求めになられるためのトータルサポートを行っております。また、館内にはコンセプト・ハウス「しもくの家Ⅱ」があります。これは、私の恩師である建築家の広瀬鎌二氏が1960年代に釘などの金具を一切使用しない日本の伝統的木造建築工法で作った「しもくの家」に因んで「Ⅱ」と称しており、先生の建築文化に対する造形の深さや優れたデザイン性を受け継いで表現しています。

「ラボット・ファクトリー」は、職人の技が住宅などの建築にどのように活かされるのかを理解していただくための施設です。弊社が開発に携わった木材の乾燥システム、日本古来の漆を使った古家具の再生技術などの他、住宅へのさまざまなアイデアが体験的に実感していただけたと思います。

● 関連事業についてお聞かせください。

結婚式場を併設しているレストラン「アーマ・テラス」と裏磐梯にあるホテル「ホテリ・アアルト」を経営しております。建設業として「住まいの可能性」を考えてきた弊社にとって、サービス業への参入は自然の流れでした。「アーマ・テラス」は、リサイクル建材や県産材を活用し、スウェーデン人の内装デザインを採用しております。また、「ホテリ・アアルト」は、都内のある企業が保養施設として建築し、その後埼玉県上尾市が使用していた施設をリノベーションして平成21年4月にリゾートホテルとしてオープンさせたものです。こうしたサービス業に参入した狙いの一つには、シェフやウェ이터が持つお客様に対する



レストラン「アーマ・テラス」の外観



ホテル「ホテリ・アアルト」の外観



サービスやコミュニケーション術を従業員に直に学ばせるということもあります。

● 震災復興やまちづくりに対する取り組みについてお聞かせ下さい。

弊社は、震災復興に対する取り組みといたしましては、私が理事を務めているNPO法人「郡山アーバンデザインセンター」による震災復興を視野に入れた「新しいまちづくり・地域づくり」を目的として、須賀川市の「おとぎの宿 米屋」周辺エリアを対象にしたランドデザインを公募するアイデア・コンペを実施いたしました。これは、これまでの単なる開発から一歩前進した土地オーナーと共同で新しいアーバンデザインへの提言を行うものです。この手法は、専門家との連携による住民参加型のまちづくりとなっており、震災後の復興計画のキーワードとなる地域コミュニティの形成、エリアが持つ機能、持続可能性、地域への経済効果などを勘案した復興モデルとなるものと考えております。また、栃木県那須町には、約1万㎡の敷地に5つの中庭を囲む73戸の高齢者向け住宅を建設いたしました。この施設は、発注者である(株)コミュニティネットの健康と福祉をコンセプトにした多世代共生型のコミュニティで、新たなまちづくりの一つの形であると考えています。

● 最後に、今後の展望についてお聞かせ下さい。

今後の建設業が目指すべき方向性は、建物を作るだけでなく、「ライフサイクル・メンテナ

ンス」に関わるサービスの提供にあるものと考えております。したがって、弊社も、お客様のライフサイクルに合わせた「ラボット」+「ラボット・ファクトリー」を中心とする情報発信と営業活動、技術スタッフによる設計・見積り等の速やかな対応など、サービス業から学んだ顧客ニーズを捉えたサービスの提供と長年培ってきた確かな技術力を上手に融合させることにより、永続的な発展を目指しています。

【インタビューひとこと】

今回の訪問で初めに感じたのは、当社では建設業とサービス業が見事に融合しており、受注に結びつけるしくみづくりが出来上がっているということである。建設業では、自社の技術力にこだわる余り、顧客ニーズを見過ごしてしまい、受注を逃してしまうケースもみられる。この点について、社長はいち早く察知してサービス業への参入により、従業員のサービス技法習得に取り組んでいる。そして、「住まい」を顧客のライフサイクルの中で考えるというコンセプトのもと、「ラボット」や「sumika」を通じて、お客様に熟練の技術力や伝統建築文化の良さを体感してもらうとともに、きめ細かなサービスを提供することにより、安定した受注につなげている。今後も、当社が社長の時流を見越した先見性や、質の高い技術とサービスを武器に一層飛躍することに期待したい。

(担当：和田)